

[プレスリリース] シェーナウ

2014年6月22日

シェーナウ環境賞「電力革命児」2014年は日本人が受賞

本年のシェーナウ環境賞「電力革命児」は反原発運動に携わる大塚愛さん(フクシマの母たちを代表)、山本太郎氏(俳優、参議院議員、反原発活動家)、佐藤弥右衛門氏(シェーナウの電力自給をモデルにして福島県に市民参加のエコ電力供給会社を立ち上げた酒造家)の3人の日本人が受賞することになった。

原発大事故から3年を経た現在、日本においても福島原発事故への報道関係の関心が薄れつつある。故郷を失った原発事故避難者や、福島第一原発で被爆の危険にもかかわらず従事する作業員たち、いまだに絶え間なく海に注ぎ込む高濃度の放射能汚染水については一般にはあまり知らされていない。むしろ東京都の治世者は、安倍首相の政権のもとで核エネルギーの復活を目指している。それも専門分野の権威や菅直人元首相などの著名人が新政府の原発政策を批判し、新たな大地震が発生した場合、福島の災害を上回る大惨事に至ることを警告しているにも関わらずである。朝日新聞の2014年3月の調査によれば、80%弱の国民が最終的な脱原発を願っているというが、それも不思議ではない。

福島の災害発生後の日本では、事故による被害や上昇する放射能濃度を軽視する原子力発電会社の東京電力 TEPCO と国営機関、省庁に抗議する集会に多くの市民が参加した。この暗鬱な状況の中で、数人の市民が熱烈な草の根的社会参加により日本の脱原発を目指して行動に移り、市民の手による次世代のための持続的な電力供給を実現するために立ち上がった。

私たちはこれらの偉大な功績を高く評価し支持するため、勇敢で多様な日本の反原発運動を代表する3人の受賞者を選定し、2014年のシェーナウ環境賞「電力革命児」によって表彰することになった。「変革をもたらすため実行に移し、反対を乗り越っていくことがどんなに困難かは、私たちも体験からよく知っています。それには自分自身のエネルギーばかりではなく、友人たちの支援もまた必要です。私たちは2014年シェーナウ環境賞『電力革命児』の授賞によってそのような運動に少しでも貢献したいと思います」と、シェーナウ電力(EWS)理事のウルズラ・スラーデック氏は語る。

佐藤弥右衛門氏、酒造家、電力パイオニア

佐藤弥右衛門氏は福島の大震災以前は職業的に電力とは関係なく、個人的にエネルギー政策に関心を寄せていた訳でもなかった。大和川酒造代表の氏は 224 年の伝統を誇る福島県会津地方の旧家の酒造家である。原発事故があった当時、氏は飯館村の観光大使でもあった。飯館村への強いつながりは、氏が「電力革命児」となるきっかけをもたらした。

かつて「日本で一番美しい村」と名付けられた飯館村は、事故の起きた原子炉から 30km 北西に位置し、原発事故によって最も大きな放射能被害を受けた地域に属している。佐藤氏によれば省庁は危険を認知したにもかかわらず放射能汚染への警告を与えることをしなかった。氏は「この村が滅びるのを見たときに、私は原子力とエネルギー事業について深く考え始めました」と語る。

佐藤氏は考えを同じくする友人と共に NPO「ふくしま会議」を設立し、犠牲者たちの発言を可能にし、原子力に依存しない社会を創ることを目的に、会津地方の住民が参加する場を提供した。氏の特別な関心事は、日本政府が長期にわたり原子力の危険性について一切、口を閉ざしてきたという背景について学校で啓蒙活動を行うことである。

2013 年 8 月、佐藤氏はシェーナウ電力をモデルにして 4 人の協力者と共にエネルギー事業会津電力 AiPower を設立した。現在 9 人の社員が 4 人の理事と共に従事している。AiPower はエコロジカルで地域的な電力供給会社として社会参加し、この目的のために空き地が太陽熱発電建設に利用されている。第 2 期には引き続き小型の水力と木材バイオマス熱利用によるオーガニックな自然エネルギーの発電が計画されている。

法規上可能になり次第、AiPower は電力の売買を開始し、また地域の電力網を入手していこうとしている。その上、電力の自給自足という野心的な目的の達成のため、地域の大型の水利権の買い取りを目指している。佐藤氏は市民の圧力が大きくなることで東京電力の福島事業の解体に至り、実際上の事業主としての政府が AiPower に権利を売渡せざるを得なくなることを望んでいる。

シェーナウ・エネルギー・イニシアティブとシェーナウ電力(EWS)について

シェーナウ電力(EWS)は 1986 年のチェルノブイリ原発事故をきっかけに設立された。同時期に省エネ運動を呼びかけ、再生可能エネルギーとコジェネレーション・システム設置の資本を提供する「原子力のない未来のための親の会」が発足された。シェーナウ・エネルギー・イニシアティブの活動に対して地域の電力供給会社の妨害が度重なり、自給によるエコロジカルなエネルギー供給を実現させるため電力網を買取るというアイデアが生れた。ウルズラ・スラーデク理事は「7年間の長い闘いでした。2回の市民投票と長期の裁判に打ち勝って、1997年によくほぼ実現に至りました。電力網が市民の手に入ったのです。現在、私たちのネット域は4倍にも拡張して、約15万戸の顧客を持ち、ドイツの最大級のエコ電力供給会社のひとつに数えられるようになりました。私たちは住民達と共に再生可能エネルギーを支え、ドイツ各地の電力網買取りのイニシアティブを支援し続けています。私たちの目的は、電力供給の中央集権的な独占構造を廃し、地域的な構造へと移行させていくことによって、エネルギー事業の立て直しを図ることです。エネルギーの将来は市民の手中にあるのです」と回想も交えて語る。ウルズラ・スラーデク氏は2011年に環境保護分野のノーベル賞といわれるアメリカのゴールドマン環境賞を受賞し、また2013年にはドイツ環境賞によりその功績を称えられている。

「電力革命児」年間賞について

「電力革命児」年間賞はシェーナウ・エネルギー・イニシアティブとシェーナウ市とが共同で表彰する名誉賞であり、個人的な社会参加によってビジョンを実現し、反対を乗り越って環境保護と持続的な省エネとに貢献した人々の功績を称えて授賞される。これまでの受賞者にはハルトムート・グラスル博士、アルフレート・リッター(Ritter Sport 社)、トーマス・ヨルベルク(GLS 銀行)、ルイーゼ・ノイマン・コーゼル(市民エネルギー・ベルリン)、イルム・ポンテナーゲル(Eurosolar 社)などがある。「電力革命児」年間賞の受賞者はまたシェーナウ市のゴールドデンプックに名誉ゲストとして記帳することになっている。

プレス関係画像: <http://www.ews-schoenau.de/Stromrebelln2014.html>

プレス関係ビデオ: <http://www.ews-schoenau.de/ews/pressevideos.html>

連絡先 : Ursula Sladek, Vorstand Netzkauf EWS eG

Fon: +49 7673 - 8885 525

E-Mail: presse@ews-schoenau.de Fax: +49 7673 - 8885 519

Internet: <http://www.ews-schoenau.de>